

つがるの昔っこ (昔話) 17

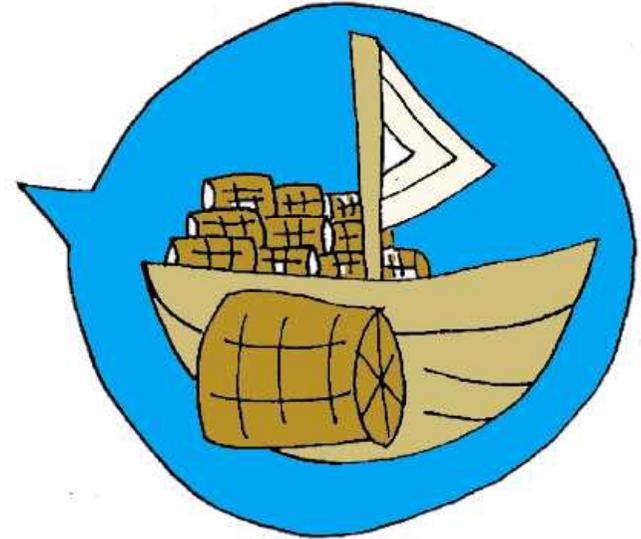
宝の徳利 (津軽弁)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ

昔、お父（ど）とお母（が）ど兄どあつたど。お母（が）ア死んで、お父（ど）ア継母（ごぎかが）もらたど。継母（ごぎかが）に男わらしア一人あつたど。兄は嫁も居で、わらしもあつたど。弟（おんじ）も嫁貰って、わらしでぎだど。





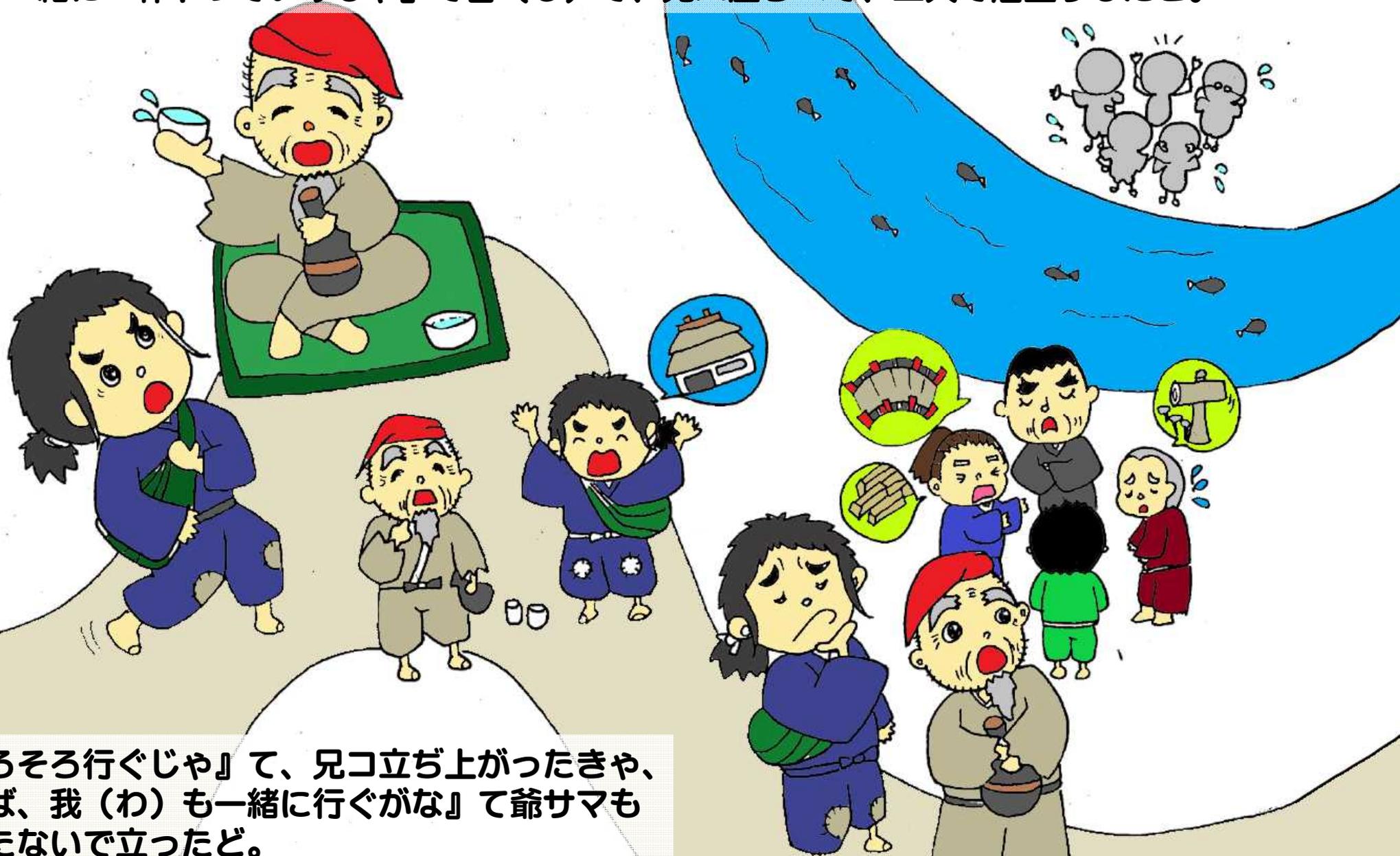
ある日、爺コア、『お前（め）だちさ
一人三十両ずづけるはんで、その銭コ
（じえんこ）で三年間、好きだもの
習って修行してこい』て言（し）たど。

弟（おんじ）ア、『我（わ）、商人（あきんど）になる』て言（し）て行（い）ったど。
兄ア、『我（わ）大工になる』て言（し）て、ずっと遠ぐのお城のある町さ行（い）って弟子入りしたど。



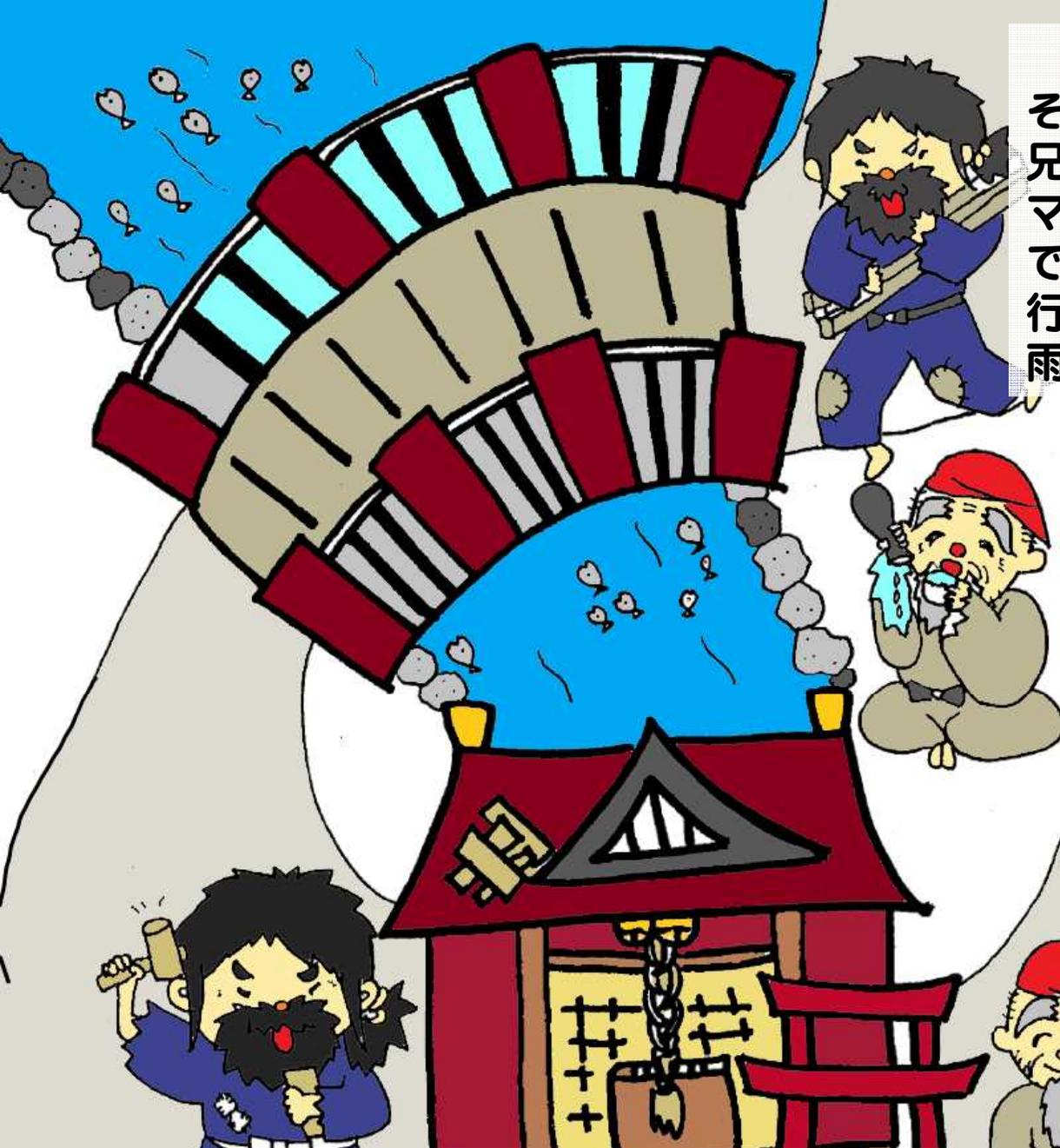
兄アみっちどかがって修行したとこで、大工の腕アめきめきと上ったと。死にくたばれ頑張って、あつという間に三年が経ったと。兄ア親方がらひまもらって、家さ帰る旅さ出だど。

道具バ背負（しょつ）てずーっと行ったきや、道路端（けんどばだ）さ、徳利立てで酒飲んでら爺
サマ居でたど。『こら、兄（あん）コ、兄（あん）コ、お前（め）どさ行くんだば。まあ、ここさ
座って一緒に一杯やっていげじゃ』て言（し）て、兄バ座らへで、二人で酒盛りしたど。



『そろそろ行くじゃ』て、兄コ立ち上がったきや、
『へば、我（わ）も一緒に行くがな』て爺サマも
徳利たないで立ったど。

二人してずーっと行ったきや、町の中の川のわぎさ人いっぱいいたがってあたど。『何だべ』ど
思（も）って見だきや、橋A流されで困ってまた町の人達集まって相談してらどごであったずおん。



兄ア、『これだば困るべなあ』と思（も）て、その町さ泊まって橋架げでやったど。兄ど町の人、せっせど働いているそばで、爺サマ、にぐらにぐらて笑いながら徳利で酒コ飲んでらど。橋も直って、二人又（まだ）ずーつと行たど。ある村さ来たきや、壊（こわ）えて、雨漏（む）ってらお宮あつたど。



兄ア『これだば神様も、村の人達も困るべな』と思（も）て、そごさ泊まって、このお宮も直しでやったど。爺サマ、そのわぎで、酒飲んでらど。又、ずーつと行ったきや、今度（こんだ）、火事で焼げてまたお寺あつたど。兄アここでも何日もかがってお寺バ建て直したど。爺サマ、ここでも酒コばり飲んでらど。

兄ア貰った銭コ（じえんこ）、ぐっと
使って来て、着物アヨサヨサどなる。
顔アは髭ばりになって、髪ア藁で結
（ゆ）ってらんだど。



二人ア又、テコラテコラて歩（あさ）ぎながらずーっと行ったど。大分（たんげ）行て、兄の村
近くなってきた時、爺サマ喋たど。『兄、兄、我（わ）お前（め）ど二人でこうして旅してきたけ
ど、そろそろここで別れるべ。我（わ）ここから曲がって行くはんで、お前（め）は真っ直ぐにさ
村さ帰れじゃ。仕事けっばって、まみしぐ暮へせ』

『爺サマ、爺サマ、何（なん）もここで急に行ってまねくても、えとまが、おえの家さも寄て泊まっていてけろじゃ』て兄言（し）たきや、『それは有難えけど、やっぱり、我（わ）ここでお前（め）ど別れるじゃ。この徳利ばお前（め）さやるね。この徳利コよ、酒コ飲みて時ア酒コ出はるし、これ振り回へば、お前（め）欲しい物、何でも出はるはんで』て言（し）て、兄さ徳利コ渡して、曲がって行ってまたど。



『爺サマア、気を付けて行げー。こっちゃ来たら、必ずおえの家さも寄てけろー。』兄叫（さが）んだきや、爺サマ振り向いで、ニグラツと笑ったきや、スーツと消えでまたど。

徳利コ風呂敷さ入（へ）で家さ戻ってきたきや、丁度（ちよんど）、弟（おんじ）も家さ戻って来たどごであったど。弟（おんじ）ア商人になって、立派だ羽織ど着物着て、お父（ど）、お母（が）さ土産いっぱい呉（け）でらんっど。そごさ、藁で髪結って、ヨロヨロず着物着て、ボロ風呂敷を下げだ兄帰ってきたど。さきた、弟（おんじ）わらしア三十両ば元手に立派だ商人になって土産いっぱい持って帰ってきたど思（も）たきや、今度（こんだ）その兄ア乞食（ほいど）だけんにして戻ってきた。



継婆（ごぎばば）ど弟（おんじ）ど弟嫁（おんじよめ）、始めは驚だばて、兄のその身なり（ふじゃま）ば見で、目配せし合いながら、馬鹿にしたようにニタラニタラど笑ったど。爺コア、こうして兄も無事に帰ってきたのを見で、嬉しくってたまらながったばて、継婆ン共（ごぎばばんど）の手前、仕方ねぐ怒ったど。



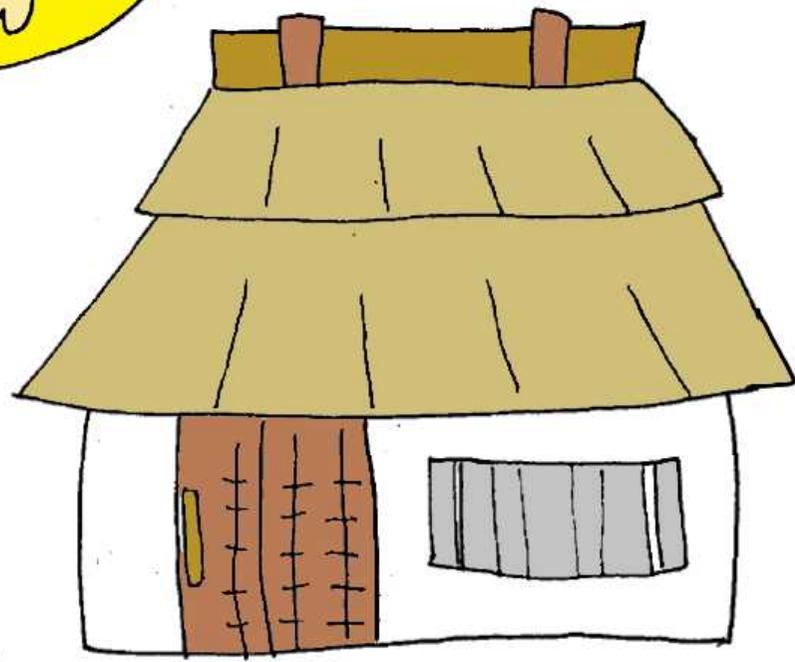
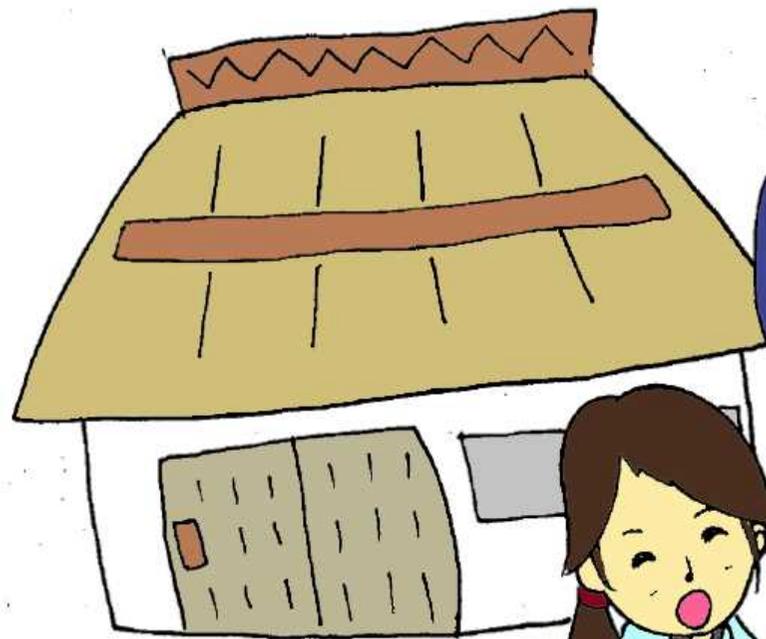
『何だばお前（め）のそのふじゃま。三十両も元手にして、お前（め）さ残ったのア、そのボロ着物ど風呂敷だけだな。汝（な）だけんた奴だば、この家さ入（へ）るわけにいがね。どごだりさぐーぐど行ってまれ』兄嫁ど子供（わらし）ア『オアイ、オアイ』て泣いで、家から追（ほ）って出されだ兄さついで行っただ。兄ど嫁ど子供（わらし）ア母屋から離れた薪小屋さ入って行っただ。





兄ア、泣いでら嬢（かが）ど子供（わらし）どそごさ座らへで、風呂敷ば開いで、爺様から貰った徳利ば出してブンブど振り回しながら言（し）たど。『ごごさ、畳敷がされー。』したきや、新しい畳バタバタど敷がさたど。『ごごさ、屏風をまわされー。』て言（し）たきや、屏風ジョロツとまわさって、また、『ごごさ、子供（わらし）の着物ど嬢（あっぱ）の着物ど、魚三品出はれ。』したきや、いーい着物ど魚ど出できたど。『菓子出はれー』菓子いっぱい出だど。

嬢（あっぱ）ど子供（わらし）ア目（まなぐたま）丸ぐして、ツラばツラにして、よろこんで、よろこんで、着物ば着て、旨（め）えもの食（く）たど。



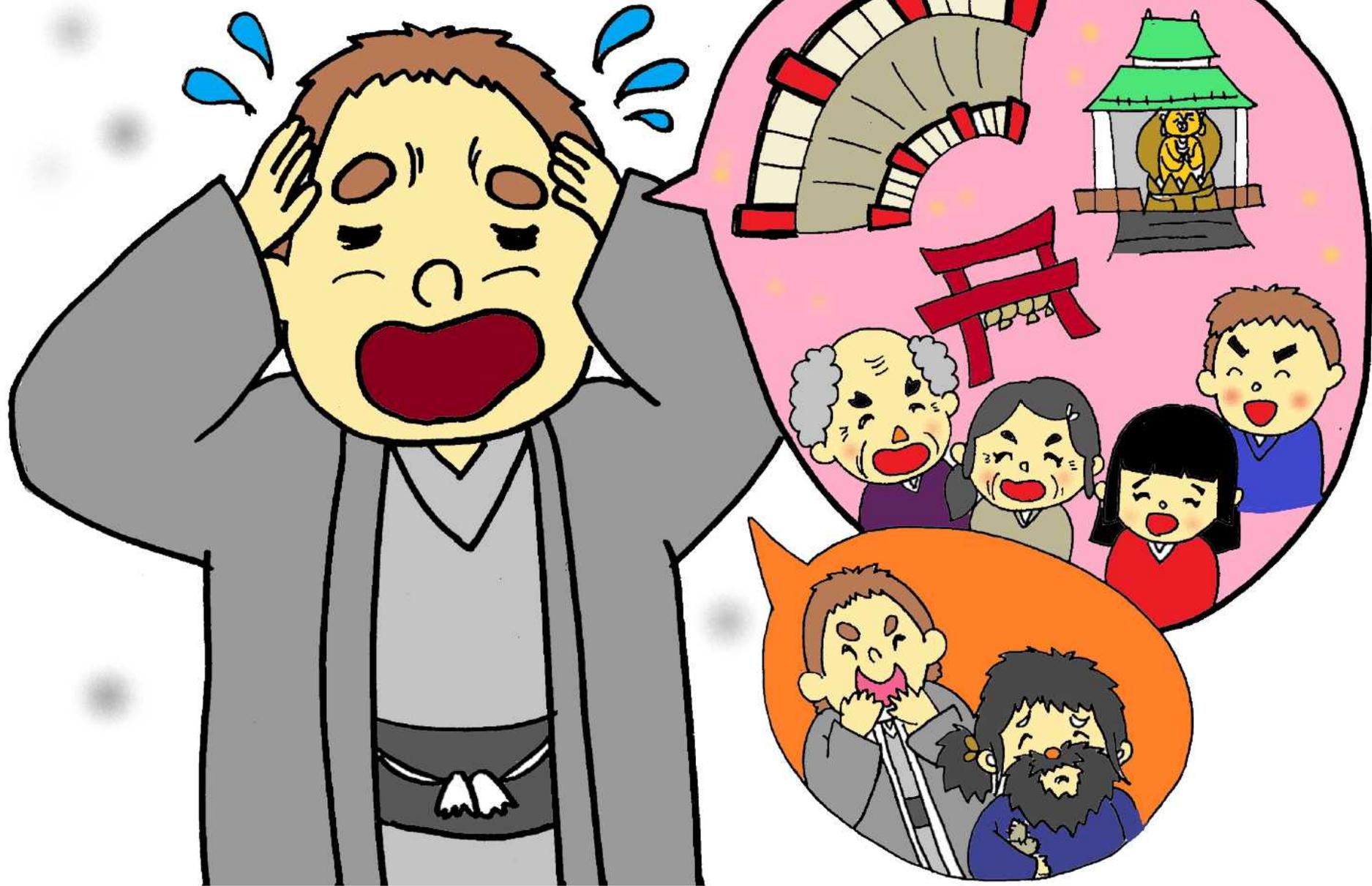
それでも嬢（あっぱ）賢（さが）して、母屋さ走（は）けで行って『爺サマ、爺サマ、おえのオド、酒も肴もいっぺ用（よ）したはんで、来て一緒に飲んでけろ』て云（し）た。爺コア、行きてふて、行きてふてあつたばて、婆怒るどごで顔（つら）出へねんだど。

兄ア、朝間に小早く起ぎで、『ここさ家建て』て言(し)たきや、立派だ家建つたど。『ここさ米蔵建て、金蔵建て』、蔵次々に建つたんだど。





降っても、照っても、兄嫁ア、弟嫁さ毎日声かけるずし、弟（おんず）の子供達（わらはんど）ア、行っても、お菓子でも何でも食て来たりす。弟嫁ア『兄嫁バ笑ったばて、今では兄嫁に笑われるでやなあ』て云（す）、爺コは爺コで、『やっぱり兄ア、兄だけある』て、モホモホどなってらど。橋だの寺だの直してもらった町の人だの村の人だのもみんな来てせ、『親方、親方』て、家コだの蔵だの建でるば頼んでいくんだど。



弟（おんず）もそれ聞いて『あーあ、我（わ）だば商いで儲げだ錢コ（じえんこ）、みんな分で使ったばて、兄アあの三十両ば橋架げだり、寺なおしたりして、みーんな人（ふと）のために使ったんだなあ。我（わ）あの時、兄のボロ着物ば笑ったりして、わいん、めぐせじゃ、めぐせじゃ』て言（し）て、

それなら、兄ば助けで二人で一生懸命に稼いで、孫子の代までも幸せに暮らしたんだ。
兄弟ずもの？、仲良くくらすもんでえ。

とっちばれ

